



地域組織の確立で
会員間の絆の促進を

第2回連携強化懇談会を開催 組織強化、政策制度、参院選について論議



5月10日JAM本部会議室において第4回三役会議に引き続き、JAM現役・JAMシニアによる2024年度第2回連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、中井書記長、川野副書記長、椎木副書記長、木村組織グループ長、JAMシニアからは大山会長をはじめ三役全員が出席しました。

冒頭安河内会長から「2024春闘では平均8113円、中小では7434円のベア、定昇込み平均賃上げでは5・25%、中小4・54%を獲得した。大手では満額回答がある反面、300人未満の中小ではゼロ回答もあった。中小は今後も同じ水準の春闘を継続していかなければならない。物価が2%なら3%の賃上げを10年続けていくことが必要」

との春闘結果についての報告がありました。また、2025年の参議院議員選挙の郡山りょう候補予定者について、立憲民主党に公認申請することを5月24日の中央委員会に提案する旨の報告がありました。

シニア側を代表して大山会長からは「物価高が高齢者の生活に重くのしかかっている。現役は賃上げで対応している。高齢者は実質的に下がり続ける年金や、社会保険の負担増に歯止めをかけていかなければならない。今年は政策課題のワーキンググループを作って、社会保障の問題を広く深く議論している。現役の皆さんの協力をお願いする」との発言がありました。

その後、現役側からは中小の現場の実態にふれて「原材料やエネルギー価格の上昇を価格に転嫁できないため厳しい状況が続いている。現場での経営側への要請とともに価格転嫁待ったなしを社会的運動として展開している」との政策制度の取り組み報告がありました。

シニア側からは、会員の減少、高齢化など厳しい組織状況について報告をし、シニア組織の拡大・強化に向けて現役に対し格段の協力を要請しました。

また、参議院議員選挙については、シニアクラブとして会員への周知を徹底し、会員以外への拡大もめざして郡山りょう応援カードの活動を展開していくことを報告し、現役の理解と協力を要請しました。

第4回三役会議開催

連携強化懇談会の前段5月10日JAM本部会議室において第4回三役会議を開催、三役全員が出席しました。

冒頭大山会長より「国会は自民党の裏金問題と政治資金規正法の改正が焦点となっているが、その他の国民生活に関わりのある重要法案にも目配りしていかなければならない」との挨拶がありました。

会議では、2025年度活動方針について論議、第2回幹事会に提案する「素案」をまとめました。また、2025年参議院議員選挙の活動の柱として「郡山りょう応援カード」の取組み方針を検討、この件も第2回幹事会に提案されます。

元旦の夕方、一家団欒特別な日、午後4時10分、多くの家庭ではご馳走の準備でソワソワ楽しい時間だったことと想いを馳せる。能登半島地震の無情さにやりきれない気持ちで四か月余りが過ぎた。

5月8日時点で改めて振り返ってみると、死者245人、うち災害関連死は15人。未だ安否不明者は3人となっている。死者のうち約6割が倒壊した建物の下敷きに。全体で見れば約4割が

「圧死」、2割が「窒息」。呼吸不全死」だそうだ。そしてその

主張



「圧死」、2割が「窒息」。呼吸不全死」だそうだ。そしてその

後の避難生活によるストレスや疲労を原因とする関連死認定申請は現在100人を超えており、今後審査会で審議されるようだ。現地では未だに3000戸を超えて断水中であり、

災害や戦争の危機は他人事でない

JAM石川シニアクラブ
代表幹事 松田和広

そして多数の1・5次、2次避難者が困難な生活を引き続き強いられる。目に見えないストレスや疲労を抱える現状を踏まえると、関連死者がさらに増えることが容易に予想

される。他人事とは思えず、我々高齢者かもしれない。日々のテレビ画面で見る荒れ果てたウクライナを想うとき心が痛む。私は1972年秋口、キエフに行った(現キーウ)。とても綺麗な街だった。「日ソ友好と平和のためのウリヤノフスク集会」に総評青年代表として代表団の一員に加わり訪問した。ナホトカウハバロフスクモスクワウリヤノフスクボルゴグラードの次に、それまで訪問のソビエト国内はモスクワを含め暗いイメージで活気の無い、貧しさを感じる街だった。

ところが航空機でキエフに着くと景色が一変、明るく華やかで、とても美しい街並みだった。ここは違う、ヨーロッパだと漠然と思った。そもそも流れる文化が違っていたのだらう。併合から独立そしていま改めて侵略の憂き目に遭っている。

ロシアのウクライナ侵攻に強く抗議する。戦争は絶対ダメ！。今回他の紛争には触れなかったが、日本政府も「防衛」と称し、トマホーク等を購入するのではなく、戦争にならないように各国各方面へ外交努力をすべきと強く思う。

第95回メーデー 「連帯の力で平和と人権を守ろう」

大正9年(1920)に始まった日本のメーデーは今年で95回目を迎えました。



今年のメーデーは「連帯の力で平和と人権を守り、誰もが安心して暮らせる新たなステージへ」をスローガンに全国各地で実施されました。

中央大会は4月27日東京・代々木公園に28、800人の組合員を集めて開催されました。芳野友子連合会長は能登半島地震にふれて「働く者の連帯によって困難な状況にある方々に寄り添っていく」また春季生活闘争の中小企業の賃上げにふれて「『価格転嫁、価格交渉、環境整備』をすすめ、『労務費を含む適切な価格転嫁』という当たり前の商習慣を根付かせましょう」

と訴えました。JAMシニアクラブからは大山会長をはじめ10人が参加、退職者連合全体では450名が参加しました。

埼玉 春の会員交流行 事務局長 小泉茂

事務局長 小泉茂

JAM埼玉シニアクラブは、春の会員交流会として4月19日(金)、参加者12名で「地震の科学館での体験」と「旧古河庭園散策」を行いました。10時京浜東北線

上中里駅に集合し「地震の科学館」へ向かいました。到着後地震発生の説明を受け4名ずつに分かれ体験ブースに入りました。震度2から始まり震度7までの揺れを体験、その後、熊本地震と東日本大震災の同じ



震度7、揺れかたを体験しました。揺れていた2分間という時間は非常に長く感じ改めて地震の怖さと家具などの転倒防止策の必要性を感じました。

その後、火災時の煙にまかれた場合の脱出方法や消火訓練も体験しました。また、館内に展示されている過去の大火害や火山の噴火などの写真や非常食見本、室内の転倒防止対策なども見学しました。

次に訪れたのは国指定名勝の「旧古河庭園」です。ここは斜面と低地を利用した石造りの洋館、洋風庭園、日本庭園です。洋館は外壁が赤黒い新小松石の切石積み、一階が洋式建築、二階は和式です。洋風庭園の見どころはバラですが当日はまだ蕾でした。日本庭園は心字池など周囲の緑と映えて心を落ち着かせてくれます。

今回の会員交流会は、貴重な体験を通して災害に対する心構えを再認識するとともに、大正の息吹に触れる庭園を見学できたことは心に残るものとなりました。

千葉 ゴルフ交流会を 開催 事務局長 田中久弥

事務局長 田中久弥

JAM千葉シニアクラブは、毎年2回春と秋にゴルフ交流会を結成以来続けて

います。今年も5月7日に真名カントリークラブ真名コースで7組27名が参加して開催されました。

前日の気象情報で雨風が強まるとの予報もあり参加予定者から中止すべきとの連絡もありましたが、当日キャンセルが出ても取り敢えず開催しようという判断し当日を迎えました。当日は予報通り朝から小雨で、日中も降ったり止んだり時より

風雨が強まる悪天候でしたが、全員怪我もなく無事にホールアウト出来ました。

表彰式は、長岡功会長の挨拶に続き、最年長参加者のTDK出身・鈴木昭夫さんの乾杯で始められました。競技は通常通り新ペリア方式で順位決定した結果、不二サッシ出身の阿井一治さんがグロス97、ネット73で



3大会ぶり2勝目を手にしました。これにより4大会続けて不二サッシ出身者が優勝する結果となりました。

2位は初出場のクボタ出身の田中篤さん、3位に松尾橋梁出身の小林貞夫さんが入賞しました。このほか多くの飛賞やドラコン・ニアピン表彰に一喜一憂するなど楽しいひと時を過ごし、次回10月に再会を約束して閉会しました。

能登半島地震救援 カンパ

「ご協力に心より感謝します」

令和6年元旦に発生した「能登半島地震」は石川県能登地方を中心に大きな被害をもたらしました。5月8日現在、人的被害は死者245人、行方不明者3人、負傷者1309人、住宅被害は全壊8597棟、半壊20087棟。避難所への避難者4130人となっています。

5か月以上経った現在、復旧・復興へ向け官民一体となつての取組みがすすんでいます。

連合は、3月から延べ2105人のボランティアを被災地に派遣し、ガレキ撤去などの活動を継続しています。

JAMシニアクラブは、現役とともに、地震発生後直ちに救援カンパの活動に



取組みました。シニア会員のカンパ金は地方JAMに送金していますので、正確な集約金額は不明ですが、全地方シニアで多くの会員からの協力をいただきました。紙面を借りて心より感謝を申し上げます。

JAM全体のカンパ金の集約総額は5月8日現在で49,555,075円で、また連合全体では185,431,538円が集約されたということです。

